

令和7年12月の解説（週間天気予報）

【12月の天候状況】

上旬は、低気圧が北海道付近を通過することが多く、北日本では低気圧や低気圧通過後の冬型の気圧配置による一時的な寒気の影響で曇りや雪または雨の日が多くなった。また、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本の気温は高かった。北日本日本海側では、低気圧の影響で大雨となった所があったため旬降水量が多かった一方、高気圧に覆われて晴れた日もあったため、旬間日照時間は多かった。東・西日本と沖縄・奄美では旬の前半を中心に冬型の気圧配置となって寒気が流れ込んだ日もあったが、高気圧に覆われた日も多く、太平洋側中心に晴れた日が多くなった。このため、旬降水量は東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なかった。また、旬間日照時間は東・西日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。

中旬は、冬型の気圧配置が長続きせず、全国的に天気は周期的に変わった。高気圧に覆われて晴れた日もあったが、日本付近を低気圧が通過した日もあった。14日から15日には北海道付近で低気圧が発達し、北海道オホーツク海側中心に大雪となった所があった。気温は、冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、全国的に高かった。旬降水量は、低気圧の影響を受けやすかった北日本太平洋側でかなり多く、低気圧の影響を受ける時期のあった東日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。旬間日照時間は、冬型の気圧配置が長続きせず、高気圧に覆われやすかった東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、低気圧の影響を受けやすかった北日本太平洋側では少なかった。

下旬は、冬型の気圧配置が長続きせず、北・東・西日本では天気は周期的に変わった。高気圧に覆われて晴れた日もあったが、日本付近を低気圧が通過し、全国的に天気が崩れた日もあった。26日頃は冬型の気圧配置が一時的に強まり、北日本や東日本日本海側中心に暴風雪や大雪となった所があったほか、31日も北日本日本海側で大雪となった所があった。沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなった。気温は、冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北・東日本でかなり高く、西日本と沖縄・奄美で高かった。旬降水量は、低気圧の影響を受けやすかった東日本日本海側でかなり多く、北・東日本太平洋側、北・西日本日本海側で多かった。湿った空気の影響を受けやすかった沖縄・奄美でも多かった。旬間日照時間は、北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、北・東日本太平洋側で少なかった。一方、寒気の影響が一時的であった東日本日本海側では多かった。

【12月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3~7日目平均)は、例年値（注）より1ポイント高い81%となった。地方別の適中率では、関東甲信、九州北部、沖縄地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。最高気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値より0.1°C小さい1.7°Cで、関東甲信、東海、近畿、九州南部の各地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。また、最低気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値より0.1°C小さい1.6°Cで、全ての地方で例年

値と同じか例年値を下回った。

(注) 例年の値は、2015 年～2024 年の平均値です。

【2月の週間天気予報の利用にあたって】

2月は、1月とともに1年で最も気温の低い時期で、厳しい寒さとなる日が多い時期です。低気圧が発達しながら通過して、低気圧の通過前後で気温が急上昇し、急下降するなど、一日の気温の変動が大きくなることもあります。週間天気予報で気温変化の傾向を把握して、厳しい寒さや急な気温変化への対策に活用してください。